

関西財界セミナー賞2010 輝く女性賞 受賞報告

2010年2月4日(木)、国立京都国際会館にて行われた第48回関西財界セミナーにて、関西財界セミナー賞2010の授賞式が開催されました。その中の輝く女性賞をいただきましたので、報告させていただきます(女性賞は4名が受賞いたしました)。

●受賞理由

結婚出産後も仕事を続ける女性の育児支援を目的に、自身の体験のもと、様々な事業を展開していること。働く女性が仕事を続けて良かったと実感できるような社会の実現は、関西の産業競争力の強化の観点からも、非常に意義があります。

●受賞のコメント

私は大学を卒業後、ダイキン工業に入社いたしました。30才で長男を、32才で次男を出産し、仕事を続けてきましたが、こんなに壁にぶち当たるとは思いませんでした。

預かってくれる保育所がなく、市からは「働き続けたかったら、4月から7月までに産むのが常識」と言われました。また、子どもが急に熱を出した時には、頭の中が真っ白になりました。お客様と9時に約束すると子どもが39度の熱が出て、そんな時は満員の御堂筋線に熱のある子を乗せて、お客様のそばの喫茶店でおばあちゃんに子どもをみてもらい、その間に営業をしたこともありました。今思うと、鬼の母だったと思います。こんな時に午前中だけでも、誰かが自宅に来て子どもをみてくれたら……。自分たちのほしいサービスは自分たちで作るしかないと、2001年、17年間勤務した会社を思い切って退職し、マザーネットを創業しました。

メインのサービスは、子どもが急に熱が出た時にお電話をいただいたら、約600人の登録スタッフの中から、ご自宅にお伺いしたり、保育所にお迎えに行ったりします。特徴は、感染症でも預かること、緊急依頼にも応じること、家事もさせていただくことです。新型インフルエンザのお子様のケアも、1月よりスタートしました。

創業して9年目。企業において制度は整いつつありますが、働くお母さんからの相談は減ることはありません。出産前と同じように仕事を任せれるようになったけれど、ハードな仕事と育児との両立で、つぶれてしまう方も出てきました。これからも、働くお母さんたちの心のよりどころとして、一人一人の悩みや声をしっかりと受け止めて参ります。

夢は、マザーネットのいらなくなる社会の実現です。企業においては、赤ちゃんのいる女性が今までと同じように活躍し、行政では病児保育のサービスが充実し……。

その日がくるまで、一件一件心をこめて、サービスをしていきたいと思っています。

株式会社マザーネット 代表取締役 上田 理恵子

